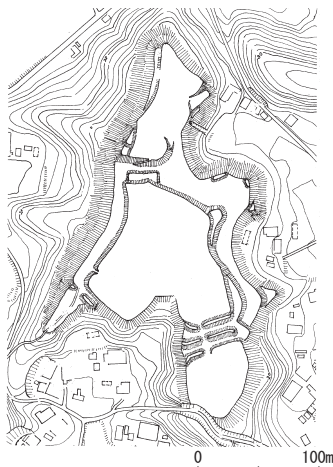


第V部

横芝光町の城郭と居館跡

N
4
+



寒風城跡

『千葉県所在中近世城館跡
詳細分布調査報告書 I』
—旧下総国地域—
発行 千葉県教育委員会
1995. 3. 31

きは空堀で区画されていたのだろう。
城主は椎名氏と伝えられている。篠本城と椎名氏が直接関係する文献資料はないが、椎名一族の椎名康胤（やすたか）が同族椎名九郎・神五郎に宛てた書状が現存する。この椎名康胤が寒風城の城主と考えられる。

は、現在道路で切り通し状になっているが、往時から台地続きは空堀で区画されていたのだろう。

寒風城跡は、篠本地区字鍛冶谷（かじざく）の台地上に位置する。南北に延びた半島状台地の先端に築かれた。南北400m、東西200mの大規模な城郭である。基本的に三つの曲輪から成り、先端部が主郭と考えられるが、中央部の曲輪に高いと見るべきなので、中央部が主郭となる曲輪1になる。北側に空堀を隔てて曲輪2がある。西辺に腰曲輪が廻り、東辺には堅堀が残存する。南端の曲輪は、土塁を伴う二重空堀で曲輪1と接する。この南



かんぶう
寒風城跡



所在地・横芝光町篠本字

城台148ほか



寒風城跡（西から）



ささもと
篠本城跡

所在地・横芝光町篠本字

城山1143ほか

篠本二区南側丘陵より南方へ突出した半島状の丘陵先端部に位置する。北側に浅い空堀を入れて城域を画し、他の三方は腰曲輪を廻し、東側に土塁が一部残存する単郭構造の城跡である。

ひかり工業団地造成に伴い、平成5年から城跡の全面発掘調査が行われ、表面踏査の結果とは大きく異なる遺構が検出された。曲輪は南北に走る2本の空堀によって3区画に分けられ、さらに溝で複郭に区画される。これらの区画された曲輪は高低差がなく、ほぼ同格の空間が並列されている。また、中世の遺物も多数出土し、住居跡も数多く検出された。なお、文献や記録などから、城主は竹元氏であったことが明らかになっている。

発掘調査は、平成10年ですべて終了し、調査終了後に城跡は崩され、南側の低湿地と共に整地され、現在では民間会社の施設となっている。



篠本城跡（西から）